

平成 28 年度 東京未来大学入学式学長式辞

入学おめでとうございます。皆さんを歓迎いたします。そして、ご臨席いただきましたご家族のみなさまに心よりお祝い申し上げます。

皆さんは今日から、東京未来大学を築いていく大学の重要なメンバーです。大学には、大学生である皆さん、授業等を担当する教員、そして総合的な学びを支援する CA、職員がいます。それぞれが大学を築いていくために欠かせない三位一体の人材なのです。その自覚を持って、将来を見据えた大学人として研鑽していきましょう。

大学で学ぶ

皆さんにとって大学での「学び」とはなんでしょうか？

オープンキャンパスでの模擬授業や入学前のゼミナールに参加された方は垣間見ることができたかと思いますが、大学での学びとは、与えられるものではなく、自ら探し求め、自分で考えることを旨とするものです。開講される科目も高校時代とは大幅に異なります。しかしながら、高校での学びを前提にしてそれに接続するように大学の授業は展開します。さらに、皆さんの周りには、教員、CA、先輩学生など幾重にもサポートする人々がいることを忘れないでください。どうぞ安心してください。

皆さんには、無限の可能性が 있습니다。人はなかなか自分の能力や適性に気づきにくいところがあります。まずは、「自分」に気づくことから始めましょう。多くの人は、自分のことは自分が一番よく知っていると思いがちです。しかし、そうでしょうか？人は他人と比べて、自分の特徴と他人の特徴との異同を知るものです。同時に、自他を比べながら互いに理解し合うことができるのです。自分が考えたことが、創造的なものか陳腐なものかは、他者からの評価と照らし合わせて分かるものです。

この意味でも、成長したいとの目的を同じくする仲間がいる大学において、三位一体である人間関係を活用してください。

4/4 からの 3 日間に渡って行われたスタートアップ・セミナーは如何でしたか？朝早くから多くのプログラムが連続していたので、正直疲れを覚えたことと思います。密度の濃い時間とはこういうものかと感じたことでしょう。

大学の授業に能動的に係わるとはどのようなことなのか、大学での学びの内容も方法も多様であることなど、大学でどう学ぶのかのヒントを得たはずですよ。

また、昨年 12 月と今年 2 月の入学前ゼミナールに参加された人には、講義を聴いてノートを取る、文章の要点をどう捉えるのかについて学んでいただきました。これも大学での学びを具体的にイメージできた大事な準備だったのです。

大学では、能動的に関わり、よく咀嚼しなければその授業で扱われたエッセンスを活かせません。また、複数の授業で得た知識や考え方を組み合わせることによって新たな発想や工夫ができるのです。基礎の科目、専門科目と学内のプロジェクトが相乗的に皆さんの大きな成長をもたらすことになるのです。

東京未来大学は、平成 19 (2007) 年に開学し、4 月から 10 年目に入りました。

今年度には10周年を記念したイベントも催すことにしています。

こども心理学部（こども心理専攻、こども保育・教育専攻）では3月で6期目の卒業生が巣立ちました。安定した高い就職率（98.0%）であり、卒業生を採用していただいた保育園・幼稚園や企業等から高い評価を得ており、嬉しいことです。心を大事にする卒業生が活躍していることは大いに誇れることであります。

モチベーション行動科学部入学の皆さんは5期生です。3月に初めて卒業生が巣立ちました。社会で活躍するための自らのモチベーションを高め、チャレンジ精神の旺盛な一期生が縦横に活躍してくれるはずですよ。

モチベーションとは、成し遂げようとする「意欲」のことであり、満足できる生活の大前提となるものです。集団や組織の目標達成、また、心豊かな社会を築くための原動力なのです。学ぶ意欲、働く意欲、そして、互いに満足できる人生を築こうとする意欲こそが、社会を築く基本となるのです。

東京未来大学の学びの特徴

本学の教育の特徴は、心、人を大事にすることを第一義とし、学問の智慧と実践・応用の統合を主眼とし、社会に出て活かせる学びを大事にしていることです。誰にとっても必要な学びは、自分自身で納得し、しっかりと知識を踏まえて実践して、社会の中で役立たせなければなりません。

本学のミッション、ビジョン

本学の使命（ミッション）は、「教育・研究・社会貢献機能を通じて、人を活かし、世の中の困難を希望に変える」ことです。言い換えますと、「自らの学びを通じて、他人を蔑ろにすることなく、互いを活かし合う。そして、世の中に様々な困難がありますが、それをできることから解決し、住みやすい満足できる社会を築くこと」を目指すことです。その方法は一通りではありません。大学生活を通じて自分にふさわしい方法を見つけ出してください。

また、本学の理念（ビジョン）は、「人の未来を、日本をそして世界を明るく元気にする」ことにあります。「学びを通じて、持続可能な満足できる世界を保障し、お互いに幸せであると思える社会を築く」ことです。

本当の豊かさを求める

現代は便利で豊かな時代と言えましょう。夜中にお腹が空いて、部屋に食べ物がなくても、近くで暖かいハンバーガーは手に入る。明日の授業の予習をしていて、分からない概念が出てきてもインターネットでその意味を簡単に知ることができます。時間をかけずとも自分のニーズを満たす手立てが簡単に手に入ります。便利な時代です。以前に比べてモノや情報は迅速に手に入ります。努力の量や時間を節約できます。でも、そこでできた余裕を人はうまく活かすことが出来ているのでしょうか。振り返る必要があるように思います。

ここで、ウルグアイのホセ・ムヒカ前大統領¹が2012年6月ブラジルで行った地球サミットでの有名な演説の一説を紹介したいと思います。なお、前大統領は4月5日に初来日

され、明日8日にはTVで緊急特番が放映されるとのことです。書籍も多く出ていますので、ご存知の人が多いいと思います。

「・・・人類が作ったこの大きな勢力（様々な危機問題に至る現代化の動き）をコントロールしきれていません。逆に、人類がこの消費社会にコントロールされているのです。私たちは発展するために生まれてきているわけではありません。幸せになるためにこの地球にやってきたのです。」便利さを追求するあまり、便利さに追い立てられているのです。

現代では、人は便利さを求め、多くのモノを得ようとしています。「持っている」ことに価値があると思ってしまう。それに対して、彼は、

「貧乏な人とは、少ししかものを持っていない人ではなく、無限の欲があり、いくらあっても満足しない人のことだ」としています。

さらに、「(ウルグアイの)労働者たちは、8時間労働を成立させるために戦いました。そして今では、6時間労働を獲得した人もいます。しかしながら、6時間労働になった人たちは別の仕事もしており、結局は以前よりも長時間働いています。なぜか？バイク、車、などのリポ払いやローンを支払わないといけないのです。毎月2倍働き、ローンを払って行ったら、いつの間にか私のような老人になっているのです。(私と同じく)幸福な人生が目の前を一瞬で過ぎてしまいます。

そして、「これが人類の運命なのか？私の言っていることはとてもシンプルなものです。発展は幸福を阻害するものであってはいけません。発展は人類に幸福をもたらすものでなくてはなりません。愛情や人間関係、子どもを育てること、友達を持つこと、そして必要最低限のものを持つこと。」と述べています。

ムヒカ前大統領の演説は、幸せに生きるという目的がありながら、生活の手段である豊かさに目を奪われてしまい、目的を忘れがちな人々への警鐘なのです。

我々自身も自問すべきです。豊かな時代と言われるが、それは何の豊かさであるのか？何のための豊かさなのかと。

これこそが、本学の使命、理念につながる発想ではありませんか。

世の中には様々な「困難」があります。それをどのように希望に変えていくのか。困難に立ち向かう意義ある挑戦の仕方を鋭く示唆していると私は思います。

皆さんにとって身近な困難はたくさんあります。例えば、保育施設の少なさ、保育士の不足、そこにつながる問題として、ワーク・ライフ・バランスの問題などです。また、現代には多様な職業がありますが、どのような職種であろうと、年々とその仕事ぶりは狭隘に、細分化されつつあります。自分のしている仕事の全容が掴めない、あるいは、チームとしての仕事が活かされていない、目の前の作業にのみかかずらわって、本来の仕事の意義が見えないのでは困ります。

社会的な出来事に関心を持ち、自分に引きつけて考えてみましょう。そして挑戦する、行動してやる必要があります。「困難を希望に変える」ためには、手段を目標にどうつなげるのかをよく考えなければなりません。大学での学びを通じて幸せな社会を築く、貢献できる、挑戦できる人になることを期待しています。

本学の大学生として期待する

大学で最も大事なことは、社会を意識しながら学ぶことです。知識を単に集めるのではもったいない。知識を活かすようにする、問題を解決するために智慧をどう使うか、つまり、「考えることを学ぶ」ことが大事なのです。

考えるためには、基礎となる概念を知る（読む、調べる）。それを用いて考えたことを人に伝え、他人の考えと付き合わせる（討論・議論する）ことは必須です。自ら吸収し、他人に伝え、確かめるという習慣（これは、学びの社会習慣とも言えます）を身につけてください。

知識やスキルを社会で活かすことにつながる教育を旨としています。そのために入学当初からキャリア教育を重要なものとして位置づけています。インターンシップや実習で保育園・幼稚園、学校、企業等に行き、実践的な体験をすることは「チームとしての学び」の機会になります。多くの方々の協力によってこそ、学びは成就します。そのためにも、考える手立てである概念を理解し、確かめながら行動してください。

大学生としてすべきことは多々あります。面倒に思えることもあるかと思います。でも、その先に、なりたい自分が待っています。仕方なくこなす課題と、自分の目標につながると思える課題とでは、モチベーションは異なります。意味がある、楽しいと捉えることによって、楽しいわくわく感が生じるものです。

本を読む 近年、大学生が本を読まなくなってきたと言われていています。スマホ利用時間は随分と増えています。スマホは便利です。いつでも簡単に情報を得ることができます。その恩恵は大きいものです。知識を調べてまとめには便利です。しかし、「自分の意見」となるとなかなか出てこない。実は読書することによって、視覚的に映像を頭の中に想起できる、読んでいる文章の背景をイメージでき、自分の体験と照らし合わせて考え、得た情報から更に自分の考えを組み立て、創造的な能力がフルに活かすことができることが解明されています（酒井、2014）²。ちなみに本学の図書館の蔵書はここ4年間で約1万数千冊増え、利用者数も毎年増えています。皆さんもぜひ利用してください。

皆さんには大きな可能性があります。ここで、自分の夢を描いてください。誰にとっても未来は洋々たるものです。試しもせずにあきらめることは決してしないでください。

皆さん、東京未来大学で、大学人同士互いに影響し合いながら、成長していくことを期待しています。入学おめでとうございます。

平成28年4月7日 学長 大坊 郁夫

註1 2009年11月にウルグアイ大統領選挙に当選し、2010年3月1日より2015年2月末まで、同国の第40代大統領を務めた。大統領公邸には住まずに、首都郊外の質素な住居に暮し、また、給与の大部分を財団に寄付し、月1000ドル強で生活していたので「世界で最も貧しい大統領」として知られた。

・佐藤 美由紀(2015)世界でもっとも貧しい大統領 ホセ・ムヒカの言葉 双葉社

・アンドレス・ダンサ,エルネスト・ウルボヴィッツ(大橋 美帆訳)(2016)ホセ・ムヒカ世界でいちばん貧しい大統領(角川文庫)

・くさばよしみ(著),田口実千代(イラスト)(2015)世界でいちばん貧しい大統領からきみへ(汐文社)

註2 酒井邦嘉教授(東京大学大学院総合文化研究科)「クローズアップ現代」2014年12月10日(水)放送